

# 知識探訪

## 多民族社会の横顔を読む

協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

### サバの「ユニセフ学校」

金子奈央 (東京外国語大学大学院・博士後期課程)

サバ州では、「ユニセフ学校」プロジェクトが進んでいる。これは、ユニセフ(国連児童基金)、マレーシア教育省、サバ・タスクフォース、マレーシア教員協会が共同で行っているものである。「ユニセフ学校」は、国民教育制度内で運営される正規の学校ではない。正式な位置付けは、「学習センター」であり、そこで学ぶ児童生徒は、マレーシア国籍を持たない外国人である。

その中でも、「ユニセフ学校」が受け入れの対象にしているのは、主にインドネシアやフィリピンから労働機会や生活の場を求めてサバ州に渡った人々の子弟で、正式な届け出のない子どもたち「未登録児童(undocumented children)」である。

マレーシア教育省調査部が2009年に実施した調査によると、7歳から17歳までの「未登録児童(マレーシア人も含む)」が、マレーシアには4万人以上存在する。そのうち、マレーシア人(両親または、どちらかがマレーシア人であることが証明される場合)で、正式な届け出をしておらず、身分証明が不完全になっている子どもたちについては、適切な手順で手続きをすることで、公立の学校で受け入れをするよう対策が進められている。

一方で、「ユニセフ学校」の対象になる子どもたちは、外国人であるため、マレーシアの公立学校に通うことはできない。現在、マレーシアの公立学校は、外国人の受け入れを行っていないからだ。私立学校は、授業料などを含め多くの費用がかかるため、彼らの両親の生業や収入から考えると、通うのは難しい。

基礎教育の機会を得ることでさえ難しい彼らに、これまで学ぶ機会を提供してきたのは、サバ・タスクフォースの運営するK A F Aと呼ばれる学習センターであった。K A F Aの正式名称は、「Kelasa Agama Fardu Ain」で、一般的にK A F Aは、イスラーム(イスラム)教育を提供する場である。

ただ、その中でも、インドネシアやフィリピンからの「移民」を多く含む村では、彼らの子どもたちに基礎的な教育の機会を与える場としても機能してきた。これまでK A F Aが担ってきた役割を、「ユニセフ学校」が引き継ぐことも、このプロジェクトの目的のひとつであった。「未登録児童」の基礎教育を担当する14のK A F Aを、順に「ユニセフ学校」へ転換することが目指されている。

そのほかにも、インドネシア政府は、コタキナバルでインドネシア人学校を、パームオイル・プランテーションでは「コミュニティー学習センター」を運営している。また、国際非政府組織(NGO)やキリスト教団体などが、「未登録児童」たちを対象にした教育支援をサバ州内で行ってきたが、マレーシアの政府機関が直接参与した「未登録児童」に対する教育支援プロジェクトは、この「ユニセフ学校」が初めてであった。

2011年3月26日に、コタキナバル近郊にあるヌンバ

ク村に「ユニセフ学校」の1校目が開校された。この学校は、「ユニセフ学校(ユニセフの支援で建設された学校)」と認識され、そう呼ばれている。「ユニセフ学校」の教育内容については、マレーシア教育省が取り決めている。基本的には、3M(読み、書き、計算)の基礎教育を中心にし、そのほかには、道徳教育、イスラーム教育、公民科目などを教える。これらの教育内容は、マレーシアのナショナル・カリキュラムに基づいて決められている。「ユニセフ学校」で教える教員たちに、マレーシアの教員資格を持ち、公立学校で教えることができる教員は含まれておらず、この村の住人が教員として養成され、教鞭(きょうべん)をとっている。

9月21日に、2校目となるユニセフ学校がサバ州の東海岸のサンダカンのバハギア村に開校した。これは、ユニセフのほかに、スウェーデンの家具販売企業であるI K E Aが運営するI K E A財団の支援も受けている。マレーシアの国定カリキュラムを使い、教員の養成のための研修を担当するなど、教育省が積極的な参与をするプロジェクトであるが、政府機関関係者たちの認識は、「ユニセフ学校」は、あくまでも「国民教育制度外」のオルタナティブ教育である、ということである。サバ社会で、大きな存在感を持ち、構成員ともなっている、これらの外国人を対象とした教育支援が、今後どのように展開されるか注目したい。



サバ州のユニセフ学校(筆者撮影)

#### < 筆者紹介 >

1981年、熊本県本渡市(現天草市)生まれ。九州大学大学院人間環境学府修士課程修了。修士(教育学)。東京外国語大学大学院総合国際学研究所博士後期課程在籍。専門は、マレーシア地域研究/比較教育学。主な研究関心は、多民族社会マレーシアにおける教育政策と教育諸活動の関係。現在は、サバ州の先住諸民族の教育社会史に関心を持っている。